

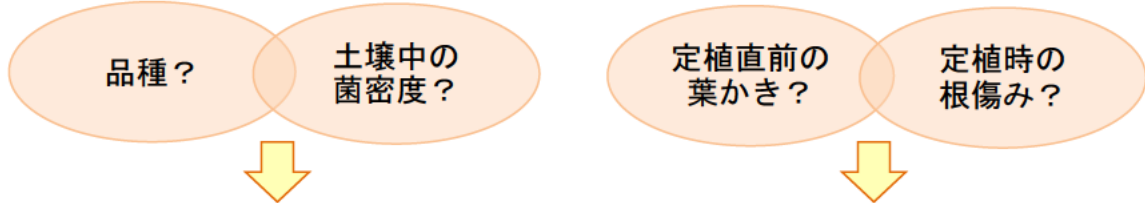
イチゴ炭疽病の発病菌密度と定植直前の葉かき処理による発病助長

イチゴ炭疽病
 ○育苗期および本圃定植後に、萎凋および枯死をおこします。
 ○伝染経路は、土壌伝染と発病株からの病原菌飛散があります。
 ○三重県の主要品種である「章姫」は、罹病性品種です。

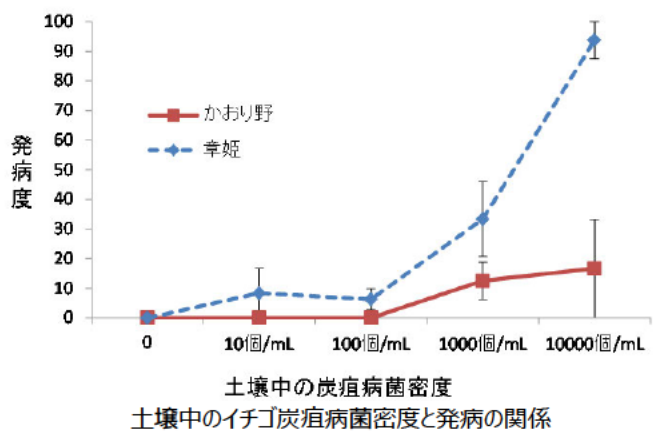


本圃での炭疽病の発病

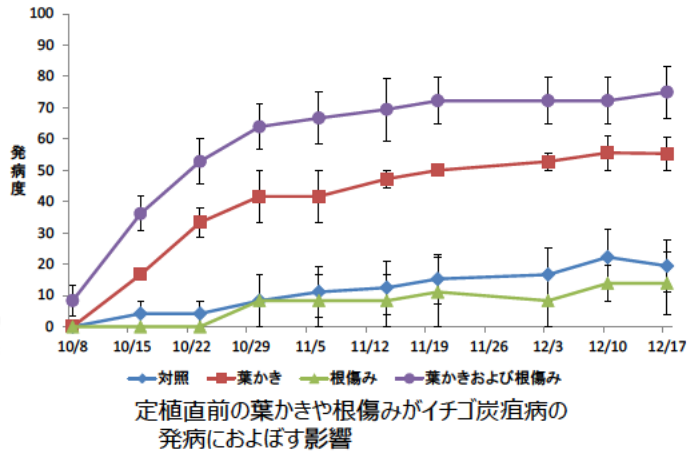
発病要因は・・・



三重県の主要品種「章姫」と「かおり野」を炭疽病菌密度別汚染土壌に定植



葉かきや根傷みを加えた直後に「章姫」を炭疽病菌汚染土壌に定植



○イチゴ炭疽病菌汚染土壌において、
 ・「かおり野」は土壌中の炭疽病菌密度が、高菌密度条件である 10^3 個/mL で発病します。
 ・「章姫」は「かおり野」に比べ低菌密度条件である 10 個/mL で発病します。
 ○炭疽病菌汚染土壌に定植する場合、**定植直前**の葉かきにより炭疽病の発病が助長されます。
 一方、定植時の根傷みが炭疽病の発病に及ぼす影響は小さいです。

➡ 炭疽病菌に汚染された圃場では、品種を「かおり野」に選定することや定植直前に葉かきを行わないことが、炭疽病防除につながります。

お問い合わせ先	農産物安全安心研究課	辻 朋子	電話 0598-42-6360
参考になる資料	三重農研HP: http://www.mate.pref.mie.lg.jp/marc/KenSeika/index.htm		